

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2022年2月分)

2022年3月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

(2) エンティティ、特別区

イ. スルプスカ共和国(RS)

●RS国民議会、セルビア系各党の国政復帰を示唆する決議を採択(1日)

●RS高等司法検察評議会法草案などの可決(10日)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●EUFOR部隊の500人追加配備決定(24日)

(2) 二国間関係

●BH要人、ロシアによるウクライナ侵攻を非難(24日)

(3) 日・BH関係

●サラエボ大学哲学部に対する在外公館長表彰の実施(3日)

●天皇誕生日に際したBH大統領評議会議長祝辞の受領(4、23日)

●伊藤大使とサラエボ・カントン科学・高等教育・青年省大臣との会談(11日)

●草の根・人間の安全保障無償資金協力「モスタル市バス公社バス整備計画」贈与契約署名式の実施(28日)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●両エンティティ銀行庁、ズベルバンクBHに運営権の一時停止措置(27日)

(2) 民間セクター

●21年の対BH外国直接投資、西バルカン域内で国別3位(15日)

(注:この月報は、当地紙報道などの公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●新型コロナウイルス感染状況(1～28日)

2月の国内の新規感染者総数は2万162人で、前月からは減少傾向。

(2) エンティティ、特別区

イ. スルプスカ共和国 (RS)

●RS国民議会、セルビア系各党の国政復帰を示唆する決議を採択(1日)

RS国民議会は特別会合を開催し、与党の賛成多数で、BH議会在RSおよび構成各民族をジェノサイドの呼称・中傷から保護する法律を制定することを条件に、昨年7月末から続いているセルビア系各党の国政ボイコットを解除することを認める決議を採択した。他方で、ドディック大統領評議会セルビア系メンバーは、RS高等司法検察評議会の設置に必要な法案を近く議会可決することを併せて呼びかけるなど、従来の分離主義的立場も堅持する姿勢を見せた。

●RS高等司法検察評議会法草案などの可決(10日)

RS国民議会は、RS独自の司法機関設置に向け、RS高等司法検察評議会法草案を与党の賛成多数で可決。その他、同議会はRS薬事庁の設置に必要なRS行政組織法改正案、およびRS政府機関が使用する庁舎などをRS資産として一方的に登録可能とする法案も併せて可決した。和平履行評議会(PIC・SB)および欧州対外行動庁(EEAS)は、RS独自の司法機関設置に向けた法案の可決を非難する声明を発出した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構 (EU加盟プロセスを含む)

●トウルコビッチ外相とストルテンベルクNATO事務総長の会談(8日)

トウルコビッチ副首相兼外相(ボシュニャク系与党第一党SDA所属)は、訪問先のブリュッセルにおいてストルテンベルクNATO事務総長と会談し、BHとNATOの協力関係の発展につき意見を交わした。ストルテンベルク事務総長は、BHの主権および領土一体性に対する強力な支持を表明しつつ、BHを含む西バルカン地域におけるNATOのプレゼンスの重要性を指摘した。

●トウルコビッチ外相とEU要人の会談(9日)

トウルコビッチ副首相兼外相は、訪問先のブリュッセルにおいてヨウロバー欧州委員会副委員長、カラス欧州議会副議長およびマカリスター同副議長とそれぞれ会談し、BH国内情勢およびEU加盟に向けた国内改革の進捗状況などにつき意見を交わした。

●トウルコビッチ外相とフロイドCTBTO事務局長の会談(18日)

ミュンヘン安全保障会議にあわせてドイツを訪問したトウルコビッチ副首相兼外相は、フロイド包括的核実験禁止条約機関(CTBTO)事務局長と会談した。トウルコビッチ外相は、クロアチア政府がBHとの国境近くトウルゴブスカ・ゴウラで予定している核廃棄物処理施設建設計画に反対する立場を伝えた。また、会談ではBH国内へのCTBTOデータ・センター設置に向けた今後の取組についても意見が交わされた。

●EUFOR部隊の500人追加配備決定(24

目)

BHに駐留する欧州連合部隊(EUFOR)は、国際情勢の不安定化がBHに波及することを未然に防ぐためとして、今後2週間以内に、近隣諸国から約500人の予備隊員をBH国内に追加配備する旨発表した。

(2) 二国間関係

●BH・中国首脳会談(5日)

テゲルティヤ閣僚評議会議長(中央政府の首相、セルビア系与党第一党SNSD所属)は北京冬季五輪開会式に合わせて中国を訪問し、李克強・中国首相と会談を行った。テゲルティヤ議長は、ロシアとともにシュミットBH上級代表の就任に反対する中国に謝意を表明しつつ、BH・中国関係が高いレベルの包括的・戦略的パートナーシップに達していると発言、「一帯一路」構想を通じた協力拡大への期待を述べた。

●BH・ベルギー外相会談(7日)

トゥルコビッチ副首相兼外相は、訪問先のブリュッセルにおいてウィルメス・ベルギー外相と会談を行い、BH情勢および二国間関係につき意見を交わした。ウィルメス外相は、RS国民議会による(分離主義的な)決議は許容できないと述べつつ、BHの主権および領土一体性、ならびにBHにおけるシュミット上級代表の活動に対するベルギー政府の強力な支持を表明した。

●英国議会議員団のBH訪問(8~10日)

英国議会国際開発委員会の議員団9名がBHを訪問し、テゲルティヤ閣僚評議会議長およびBH議会上下両院の議長団とそれぞれ会談した。

●コムシッチ大統領評議会議長のスペイン訪問(9日)

コムシッチ大統領評議会議長(クロアチア系)はスペインを訪問、国王フェリペ6世と会談し、政治・経済・文化の各分野における両国関係の発展に向け意見を交わすとともに、セルバンテス文化センターのBH国内での開設の可能性につき話し合った。また、コムシッチ議長はサンチェス同国首相とも会談し、二国間関係の更なる強化に取り組む方針で一致した。

●ドディック大統領評議会メンバーのセルビア建国記念日式典への出席(15日)

ドディック大統領評議会メンバーは、セルビア国内で開催された同国建国記念日の祝賀式典にセルビア政府要人とともに参列した。なお式典に先立ち、在セルビアのEU加盟国の一部大使は、BH国内で分離主義的動きを強めるドディックが参列する場合、式典参加を取りやめる方針を示し、ブチッチ・セルビア大統領にドディック・メンバーへの招待取消しを求めている。

●BH・フィンランド、BH・デンマーク外相会談の実施(18日)

ミュンヘン安全保障会議にあわせてドイツを訪問したトゥルコビッチ副首相兼外相は、会合マージンにおいてハービスト・フィンランド外相およびコフォズ・デンマーク外相とそれぞれ個別に会談を行った。両会談では、BH・フィンランドおよびBH・デンマークの二国間関係に加え、西バルカンおよびBH情勢についても意見を交わした。

●BH・イラン外相会談(18日)

トゥルコビッチ外相は、ミュンヘン安全保障

会議のマージンにおいてホセイン・アミール・アブドラヒアン・イラン外相と会談し、両国関係の強化に向けて意見を交わした。

●BH・ドイツ外相会談(19日)

トルコビッチ外相は、ミュンヘン安全保障会議のマージンにおいてベアボック・ドイツ外相と会談し、西バルカン情勢につき意見を交わした。この中でトルコビッチ外相は、最近のBH情勢につき情報を共有するとともに、国内改革の再加速化に向けた方向性を説明した。

●トルコビッチ外相と米国連邦議会上院外交委員会の議員団3名の会談(19日)

トルコビッチ外相は、ミュンヘン安全保障会議のマージンにおいて米国連邦議会上院外交委員会の議員3名と会談し、最近のBH情勢につき意見を交わした。双方は、BHの国家機能の改善および国内改革継続の重要性を確認するとともに、米国のBHにおける取組の強化が平和および安定に資するとの見方を共有した。

●BH要人、ロシアによるウクライナ侵攻を非難(24日)

ロシアによるウクライナ侵攻を受け、コムシッチ大統領評議会議長およびジャフェロビッチ同ボシュニャク系メンバーはこれを強く非難した。またBHは、3月2日に国連総会で採択されたロシア非難決議にも参加。一方で、ドディック大統領評議会メンバーは、決議への参加につき大統領評議会は合意していないと述べ、賛成票を投じたアルカライBH国連大使を非難、同国の賛成票は無効であるなどと主張した。

(3)日・BH関係

●サラエボ大学哲学部に対する在外公館長表彰の実施(3日)

伊藤駐BH日本国大使は、サラエボ大学哲学部に対し在外公館長表彰を授与した。サラエボ大学哲学部は、2013年に公開講座として日本語講座を開講して以来、日本語教育の普及や日本文化の紹介を継続的に行い、両国の相互理解および友好親善に大きく貢献してきた。



●天皇誕生日に際したBH大統領評議会議長祝辞の受領(4、23日)

4日、伊藤駐BH日本国大使はトルコビッチ外務大臣より、天皇誕生日に際したコムシッチ大統領評議会議長の祝辞を受領した。会談の席では、BHが紛争終了後最大の国難とも言える政治状況の中でも、二国間関係が着実に発展していることを確認し、今後の協力を拡充することで一致した。また、23日、伊藤大使は、天皇誕生日に際してBH国民に対してメッセージを発出した。

●伊藤大使とサラエボ・カントン科学・高等教育・青年省大臣との会談(11日)

伊藤駐BH日本国大使はニコリッチ・サ

ラエボ・カントン科学・高等教育・青年省大臣と会談し、同カントンにおける高等教育機関の発展や若年層の雇用促進などにつき意見を交わした。ニコリッチ大臣は、紛争後の日本の支援に謝意を表明し、日本との協力拡大への期待を示した。伊藤大使は、若い世代を中心とする両国の友好関係の一層の発展に期待を示した。



●草の根・人間の安全保障無償資金協力「モスタル市バス公社バス整備計画」贈与契約署名式の実施(28日)

伊藤駐BH日本国大使は、マリッチ・モスタル市(BH南部)バス公社社長との間で、日本政府による新規バス調達のための7万9,462ユーロ(約961万円)供与に係る贈与契約に署名した。本件供与はモスタル市バス公社の輸送サービスの充実化につながり、約11万人の市民と観光客に直接裨益する見込み。



3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●両エンティティ銀行庁、ズベルバンクBHに運営権の一時停止措置(27日)

BH連邦およびRSの両銀行庁は、ウクライナ情勢の不安定化を受けた措置として、銀行庁法に基づき、両エンティティに展開するズベルバンクBHの運営執行権を一時停止する旨決定するとともに、経営再建に向けた措置を進める旨発表した。

その後、BH国内に展開するASA Banka および Nova Banka の大手2行は、それぞれBH連邦とRSに展開するズベルバンクを買収する旨発表した。

(2) 民間セクター

●S&P、BHの信用格付けを“B”で据え置き(10日)

国際的な信用格付け会社であるS&P(Standard and Poor's)は、BHの信用格付けを安定的な見通しの“B”(B with stable outlook)で据え置き。同社アナリストは、RSが進める分離主義的行動などによる恒常的な政治不安はBHの経済成長に悪影響を与える可能性があるとする一方で、BHの対GDP比の債務残高が低く抑えられていることは引き続き好材料であるとする分析を示した。

●21年の対BH外国直接投資、西バルカン域内で国別3位(15日)

BH投資促進庁(FIPA)によれば、2021年の対BH外国直接投資額は、前年比65%増の10億4,900万KM(約5億3,600万ユーロ)で、西バルカン域内ではセルビア、アルバニアに続く国別3位であった。